



最優秀賞受賞にあたって

宮城県石巻市立雄勝小学校 とくみずひろし
徳水博志

皆さん、こんにちは。被災地から参りました宮城県石巻市立雄勝小学校の徳水博志と申します。このたびは、このような場を与えてくださいました東京書籍様に、私は大変感謝しております。と申しますのは、現場の教師というのは、なかなか自分の実践を文章にして発表する機会がありません。ですから、こうした機会を現場の教師に与えていただいたことを大変感謝しております。

第二点目は、審査委員の先生方に大変感謝を申し上げます。今回1万2000字の論文を書きましたが、書き始めたときは約3万字あったのです。それをそぎ落として、私の感情や肉声の部分は全部そぎ落としまして、骨と筋肉だけの文章にしました。その文章を読んでいただいて、その行間に込められた私の思いと被災地の子どもたちの状況を、読み解いていただいたということに感謝の気持ちでいっぱいです。

そして、これが学校現場に論文集として広

まることも、被災地の教員としては大変嬉しく思っています。被災地は、東京から見るともう復興していると思われるかもしれませんが、まったく復興しておりません。私の住んでいる石巻市雄勝町は、まだがれき撤去が終わったままです。そして、子どもたちの大半は仮設住宅に入っています。校舎もまだ仮設の校舎です。そういう中に我々はいます。

こうした状況の中で、被災地の実践は、はっきり申しますと血みどろの実践で、子どもたちも変わったか、変わらないかも正直わからない状態です。そのような実践を最優秀賞という栄誉ある形で全国に発信していただくのは、被災地を代表しまして大変嬉しく思っています。

今後ともこの「東書教育賞」を継続していただき、現場の実践を掘り起こしていただきたいという思いでいっぱいです。

本日は、ありがとうございました。